

## 第1回 IT 総合戦略本部新戦略推進専門調査会人材育成分科会 議事要旨

1. 日時 平成 25 年 10 月 30 日 (水) 13:30-15:30

2. 場所 中央合同庁舎 4 号館 123 会議室

### 3. 議題

- (1) 開会
- (2) 分科会について
- (3) 関係府省の取組み説明
- (4) 「IT 人材強靱 (じん) 化計画」(仮称)(初案)について
- (5) 閉会

### 4. 出席者

清水座長、大川構成員、小野寺構成員、國井構成員、小泉構成員、重木構成員、下村構成員、高橋構成員、松本構成員

内閣官房 情報通信技術 (IT) 総合戦略室 遠藤政府 CIO、  
二宮参事官、市川参事官、濱島参事官、永山企画官、  
岩丸政府 CIO 補佐官、平本政府 CIO 補佐官、宮沢政府 CIO 補佐官  
総務省、経済産業省、文部科学省、内閣官房情報セキュリティセンター

### 5. 議事概要

- (1) 開会
  - 清水座長より挨拶
- (2) 分科会について
  - 事務局より資料 1-1、1-2、及び 1-3 について説明。
  - 資料 1-3 に則り、座長代理として清水座長より小泉構成員を指名。
  - 事務局より、資料 1-4 について説明し、構成員の確認を得た。
- (3) 関係府省の取組み説明
  - 文部科学省 (資料 2-1)、総務省 (資料 2-2)、経済産業省 (資料 2-3)、及び内閣官房情報セキュリティセンター (資料 2-4) より各資料をもとに説明。
- (4) 「IT 人材強靱 (じん) 化計画」(仮称)(初案)について
  - 資料 3 について、清水座長より内容の説明を実施した後、構成員からの意見を求めた。  
構成員からのご意見は以下の通り。

- 現在の案では、ITによる効率化に重きが置かれているように読めるが、これからは、国民一人一人がITを創造的に利用していくことが大切。そのため、計画には、国民の「創造性」とか「個人の力」とかそういったことの大切さが伝わるような表現を入れて、ITによって国が活性化して元気の出るような文書にして欲しい。
- 便利だと思うというのがまず一歩で、次に、自らがやりたいことのための手法・工夫の中でITが自然に選択肢に入ってくるという国民の意識、それから、それをつくれる創造性、この3つがすごく大切だと思う。
- そのためには、便利なサービスをまずは行政がどんどん提供していくことで、その後押しができるのではないかと。また、国民全体がオープンに助け合える体制作りも必要だと考える。
- ITリテラシーというのは基本的にネットワークにつながっているところからまずいろいろな引き金になっているのだということをぜひ皆さんで共通の認識として改めて持っていただきたい
- 情報通信の利活用と言うと、受け身のイメージが強いが、ICT社会の一番の特徴は、個人が誰でも全世界に向けて情報発信できることであり、問題を起こしているのは情報を発信しているほうであると思います。ですから、受け身だけではなくて情報発信側のモラルの問題とカリテラシーの問題を議論していただきたいと思います。
- 今のICTの利活用がどんどん進んできているというのは、昭和30年代、40年代のモータリゼーションと似ている。モータリゼーションが始まったときに、交通安全教室を幼稚園からずっとやっている。この交通安全教室のようなことをICTの利用に関しても利活用に関しても絶対にやっていかなければいけない問題だと思う。

交通のほうの問題は人命に直接響く問題なので恐らく理解しやすいのだと思うが、ICTのほうは人命に直接リンクすることはほとんどないので、どうしても経済性とかモラルとかそういう部分なので説明がしにくい。このあたりを、教育の専門家の方々にぜひ御助言いただいて、このICTというものを特に幼稚園とか小学生など若年層にどう理解してもらうのかを議論すべきである。
- 国際競争力としてどこまで達成できるかということが重要だと思いますので、強靱化という観点ではどこに特徴を持って、あるいは弱いところをどうカバーするかというようなことを挙げていく必要があると思います。
- ITとビジネスの融合というだけではなく、それによって新しい価値、新しいビジネスモデルをつくるのが大切であり、その新しい価値をどうつくっていくかということを教育に盛り込んでいくべきです。
- 社会科学系の方たちにもICTを御理解いただかないといけないと思います。ITパスポートなどは非常に有益で、採用時のエントリーシートに点数を書き込むなど、そういう取り組みがどんどん進んでいるのですが、そのような仕掛けづくりについては、もっと取り組むべき点であると思います。
- ソフトウェアエンジニアリング（ソフトウェア工学）は、いろいろな定義があり、プログラミングをやっていると何となくソフトウェアエンジニアリングみたいに思われていたりしますが、日本は国際的に非常にこの分野が研究としても弱いですし、教育としても弱いので、ぜひ強化という観点で盛り込みたいと思います。

- 教員、若いプログラマー、さらには、セキュリティ人材の育成には、これまでもさまざまなか  
ころで携わってきましたが、重要なことであるという認識を持っているので、今後も、推進し  
ていきたいと考えている。
- ICTのCの部分、ネットワークという部分が確実に社会を変えている。  
国民全体というクロスで初等中等教育から、さらには高等教育、そして生涯教育のなかで、一  
貫してスキルとか、もっと広い意味のリテラシーを統一化し、根本的な施策に反映し、省庁間  
が連携してこういう仕組みをつくるというのは大変すばらしいことだと思います。
- 社会人と非社会人という言い方について、言葉の定義を検討すべきである。
- 日本がもう一度産業競争力を取り戻すためにはIT活用をできる人材を育てることが重要で  
あると考えます。
- 社会にイノベーションを起こして引っ張っていくような人材をどうやって育てるのかという議  
論をぜひこの中に盛り込んで検討したいと思います。
- IT利用者とITサービス提供者、使う人、提供する人というふうに分けて考えると、うまくイノベ  
ーションが生まれなため、これをいかに一緒にぶつけて問題を解決するかという社会の仕組  
みをどうやって変えていくかということの取り組みが必要であると思います。
- 内容が、利用者の方のことが多いように思えます。サービス提供者は、座長ももっと分割すべ  
きではないかとおっしゃっておられましたが、まさに同感で、ここをもう少し深堀りしないと、  
余りにもIT・ICTの利用のリテラシー向上というところに行ってしまう、我が国は外国でつく  
っていただいたIT製品、ICTサービスをうまく利用する、それだけの国になってしまうという  
のはまさに寂しい限りだなと思いますので、ここはもっと重要だと思います。
- 利用者というのは、特に安全で安心で便利でなければ使っていないが、利用者が望むところ  
まで成熟していないサービス、製品に対しては、現時点では、そこを埋めるのが社会のサービ  
ス、あるところは国民のリテラシーであると思う。
- やはり教育の機会に対して企業の積極的参加というものを推進していくべきである。これは産  
学連携とかと言われているのですが、うまく進まないのであれば、何が原因となっているのか  
を突き詰めたほうが良いと思う。
- これからシニア層がどんどん出てきます。こういう人を活用するというのが重要なのではない  
かと思いますが、セキュリティ人材でいますと再教育も必要であるため、今から出てくる若  
い人たちをセキュリティ業界に持ってくるだけでは足りません。ですので、今いる人たちを再  
教育してセキュリティのほうに持ってくるということも必要です。
- 高齢者というくくりではなく、ITにふなれな人、年をとってハンディキャップを持ってITが  
うまく活用できない人などきちんと対象者を区別して検討すべき。
- 今までIT系の人材に関しては、専門分野の中で人材開発をし、育成をし、効率化をずっと進め  
てきました。そうすることによって非常に能力も上がって効率化ができたのですが、提供を受  
けるユーザー側の視点が非常に見えにくくなっています。今後は、提供を受ける側の視点を教  
育に含めていく必要があると思う。
- 業務において、ユーザーだからとかITベンダーだからといって区分けすることは非常に難しく  
なっているので、そういう考え方を念頭に置いて進める必要があります。

- できたものばかりにスポットを当てるのではなく、つくる側の人材にスポットを当てるよう仕組みとか考え方、取り組みを進めていく必要があるのではないかと思います。
- 高度IT人材の育成というのは国がやっても余り意味がないような気がしていて、例えばアメリカのピンタレストというサービスは、100万人の会員を集めたサービスを提供しました。それをつくるのに必要な技術者は4名しかいないのです。4人で100万人のサービスがつくれるときに、何万人人材が足りませんかという話というのはおかしいのではないかと思います。人材育成より可能性のある人材を発見・発掘する部分にフォーカスを置いたほうが良いと思います。
- 個人的には、必修のプログラム教育というのは、やるメリットが見えにくいいため必要性を感じない。
- 学校に教科書のかわりにタブレットを持っていくなどの施策には全く意味がない。電子会議システムによる遠隔授業や指導など、目的となる子供たちの学習促進のためになる施策について検討することが必要である。

○清水座長より次の点について構成員に依頼。

たくさんの貴重な御意見、ありがとうございました。本日御発言になられましたことを含めまして、さらに具体的な提案もしていただければ誠にありがたく思います。

先ほど交通事故のお話がありましたが交通事故は件数が減ったとかエビデンスベースであるわけです。そのような形を評価指標に持っていくというのも重要ですし、それを具体的にどういう風に取り組むのかというのを提案しないとKPIにも載せられません。そういったことも含めてぜひ御指導いただきたいと思います。

委員会に出てきて集まればいいだけの構成員ではないということで、誠に申し訳ありません。この強靱化計画（仮称）は、この分科会で関係府省庁と連携しながらつくるところが重要であり、計画が世に出た時に「なるほど重要だ」、「こういう風に進めていきましょう」とみんなに思ってもらおうということが最も重要なことと考えております。

その際には、わかりやすい表現ということも一つのポイントとなると考えておりますので、最終的には表現の点についても御意見をいただきたいと思います。

## (5) 閉会

### ①遠藤政府 CIO より挨拶

今回のIT戦略ではIT利活用で世界最先端としているが、この利活用というのは決して受け身なところだけではなく、ITを使って新しい産業や事業をつくっていくことを意識しております。

使われている用語が必ずしもきちんと定義されて使われているわけではなく、話が行き違ったりすることがあるため、この言葉については定義をつけ加えたほうが良いのではないかとこの用語があれば、ぜひピックアップしていただき寄せていただければと思います。

また、国民全体のITリテラシーを上げるということについてですが、日本の場合、一番下の層の、ITについては余り興味のない人たちが結構いることによって、せっかく電子化した手続

などでも余り使われないという事例もあるようです。要するに、リテラシーアップの趣旨は、それが社会全体の弱みにならないようにしたいということなのです。一方、すごい人は放っておいても出てくるのだと、私もこれは全く賛成で、同じ環境にいたって、やはり違うわけです。ですから、そういう人たちが本当にどんどんいけるというのは、後ろに続いている部隊がそれを何らかの形で役に立ててくれるという気持ちも非常に重要なのではないかという気がし、この人材育成の狙いは弱みを解消しながら強みを発掘して、日本が IT の分野でもリーダーになるというように欲張りな狙いを持っているということを頭に置きながら御意見いただくと大変ありがたい。

また、IT というのはほとんどのところで使われている。当然、どこにでも使われているということは、コミュニケーションがなければ IT なんてもともとあり得ないわけです。機械の中は IT だらけ、自動車も昔と比べれば IT だらけです。要するに、IT なくして世の中成り立っていないということが意外に知られていない部分となっています。

今までの IT 戦略は言い放しで、ほとんど成果のフォローをしていなかった。今回、政府 CIO というものができたのは、それを解決したいということが非常に大きなポイントになっております。さらにもう一つ、本日説明がありましたように人材育成のことについて各省がいろいろなことをやっています。最近では連携して事業をやろうという形のものも幾つか出てきていますが、まだ他の省庁が関係しているものも随分あります。この辺もつなげていくということが非常に大きな実現のための力になると考えておりますので、皆様の目についたことがありましたら、「この取組が不足している」と指摘していただくと、各省もまた励みになるのではないかと考えております。

最後になりますが、ぜひ皆様のいろいろなアドバイス、また、積極的な実作業への参加についてよろしく願いいたします。

## ②清水座長より閉会の挨拶

以上、第1回の「人材育成分科会」を終了させていただきます。ありがとうございました。

以 上